

2010年（平成22年）自転車生産・輸出入・出荷状況

財団法人自転車産業振興協会

1. 最近の需給状況

- ① 1950年以降、高度経済成長期やその後の2度にわたるオイルショック、さらにはバブル景気等の経済変動の中にあつて、我が国の自転車需要は順調な伸びを見せ、2000年には年間出荷台数が1,000万台を突破するまでに拡大した。
- ② 需要の増加に伴い国内生産も年々拡大を続けたが、1990年をピークとしてその後は減少に転じ、輸入が国産の減少分をカバーする以上の勢いで増加して国産を凌駕するようになり、今では国内需要の9割は輸入車が占める状態にある。
- ③ 2000年以降の出荷台数は08年まで1,000万台超で推移してきたが、09年に10年ぶりに1,000万台を割り10年にはさらに前年を下回るなど近年は減少傾向にある。
- ④ 需要減少の主な要因は次のとおり。
 - ◆08年9月のリーマンショックを契機とする景気低迷とその後も続く景気足踏み状態。
 - ◆00年前後からの需要規模の肥大化が進んだ結果、市場が飽和状態となったこと（直近10年間の出荷合計は1億776万台で、日本の総人口1億2,805万人の84%を占有）
- ⑤ 環境や健康に良いことから近年は自転車ブームであり、特にスポーツ車を含む「その他」車種が出荷全体の2割を占めるほか電動アシスト車も毎年増加傾向にある。

日本の自転車国内生産・輸入、国内出荷の推移

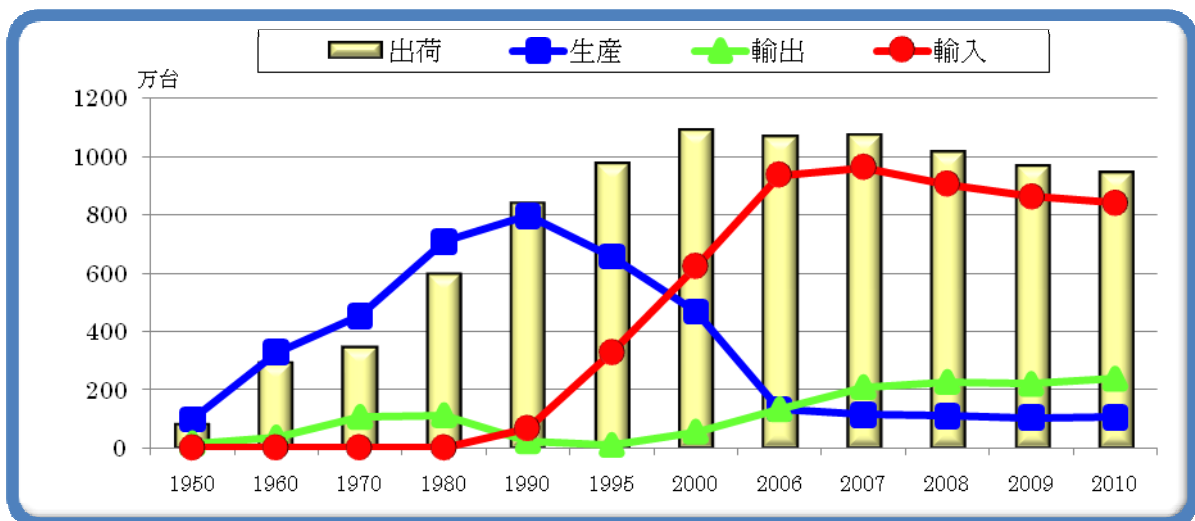
(単位=万台)

年	1950	1960	1970	1980	1990	1995	2000	2006	2007	2008	2009	2010
生産	98	329	453	708	797	658	468	134	114	110	105	106
輸出	16	36	107	113	23	10	56	134	210	228	221	239
輸入	0	0	0	0	67	327	623	934	960	903	862	840
出荷	82	293	346	595	841	975	1,091	1,067	1,074	1,013	967	946

統計出所: 経済産業省機械統計、財務省貿易統計

(注1) 電動アシスト車は国内生産には含むが、輸入には含まない

(注2) 国内出荷は国内生産と輸入(全体)を加算したもののだが、千未満の端数処理により、これらの和と一致しない場合がある



2. 生産 (2010年の生産統計は確報値ですので年報発表時に一部修正される場合があります)

10年における自転車生産台数は1,057千台で、前年の1,045千台に対し1.1%（12千台）増となった。また、金額ベースでは369億5,900万円で、前年の342億2,100万円に対し8%（27億3,800万円）のアップとなっている。

車種別では、軽快車が563千台で全体の53%を占めて最も多く、次いで電動アシスト車336千台（32%）、ミニサイクル60千台（6%）、子供車・幼児車49千台（5%）、特殊車44千台（4%）と続き、マウンテンバイクは僅か6千台（0.6%）となっている。

平均単価は全車種とも前年を上回っており、全体では34,966円と前年（34,221円）より745円の上昇となった。生産金額の増加要因としては高価格の電動アシスト車の増産がある。電動アシスト車は他の車種が減産傾向にあるなかで、需要の拡大を背景に安定した増産傾向にある。

車種別生産の状況

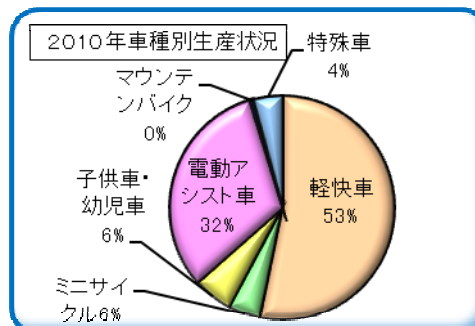
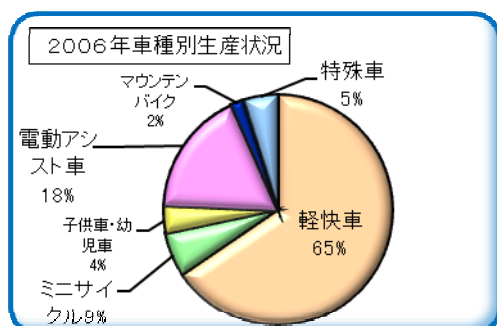
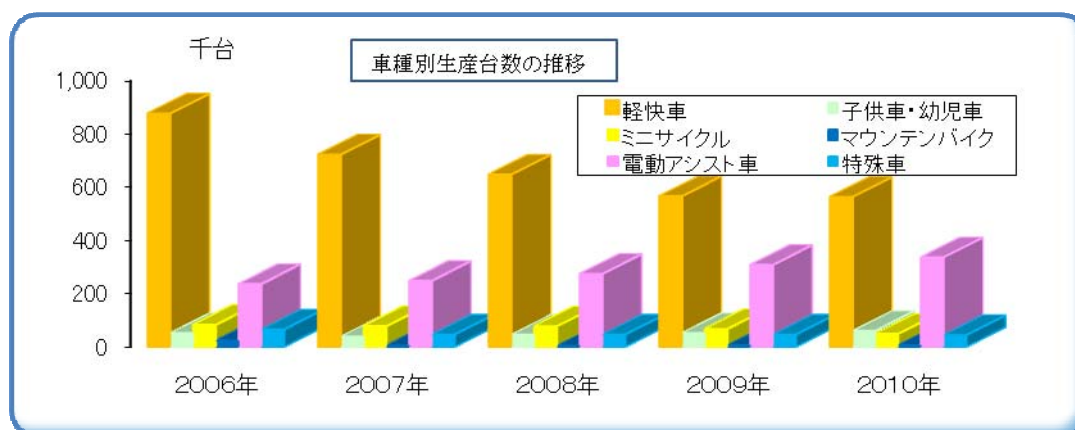
(単位:数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

車種	2006年	2007年	2008年	2009年			2010年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
軽快車	876	722	647	566	10,473	18,504	563	10,631	18,883
子供車・幼児車	52	39	46	52	683	13,135	49	660	13,469
ミニサイクル	83	78	77	67	920	13,731	60	841	14,017
マウンテンバイク	24	5	4	6	137	22,833	6	143	23,833
電動アシスト車	236	248	274	308	19,900	64,610	336	22,540	67,083
特殊車	65	46	46	46	2,107	45,804	44	2,142	48,682
合計	1,336	1,138	1,095	1,045	34,221	32,747	1,057	36,959	34,966

統計出所:経済産業省・機械統計

(注1)千未満を端数処理したため、全車種の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2)平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



3. 輸 出

07年まで増加を続けてきた自転車輸出は08年から減少に転じここ2年は横ばい傾向で、10年は対前年比8%増の2,393千台となった。金額ベースでも31億8,000万円と前年の30億100万円に対し6%上昇したが、平均単価（FOB：本船渡し価格）は前年の1,355円から1,329円と2%下落している。

仕向地別ではガーナが441千台と全体の18%を占めて最も多く、次いでカンボジア418千台、タンザニア261千台、ミャンマー240千台と続いており、アジア向けが1,666千台でアフリカ向けの723千台と合わせると全輸出の99.8%に及んでいる。輸出単価と仕向地からも分かるように、自転車輸出のほとんどは日本で消費され使用された中古車である。

主要仕向け地のうち前年と比べて増加しているのはアフガニスタン（105千台増）、カンボジア（63千台増）、ミャンマー（58千台増）等であり、対照的に著しく減少したのはベトナム（113千台減）、香港（83千台減）である。

仕向地別輸出状況

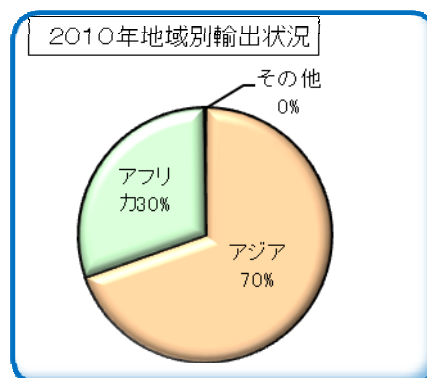
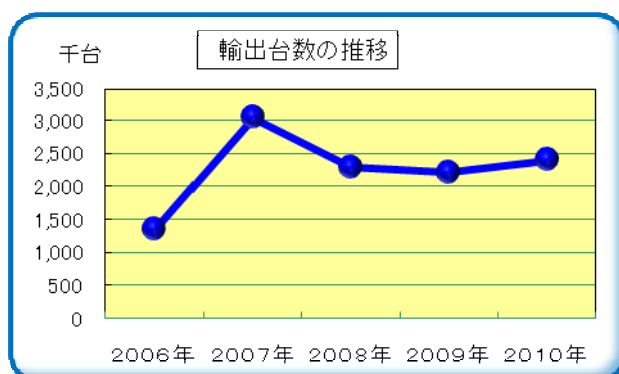
（単位：数量＝千台、金額＝百万円、平均単価＝円）

国名	2006年	2007年	2008年	2009年			2010年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
ガーナ	218	260	316	417	681	1,633	441	694	1,574
カンボジア	441	587	475	355	415	1,169	418	513	1,227
タンザニア	64	199	295	231	381	1,649	261	404	1,548
ミャンマー	67	29	69	182	210	1,154	240	268	1,117
タイ	51	140	97	154	194	1,260	173	207	1,197
アフガニスタン	5	7	5	40	47	1,175	145	155	1,069
ベトナム	75	592	536	251	415	1,653	138	136	986
アラブ	16	75	68	119	188	1,580	126	199	1,579
フィリピン	34	61	67	99	115	1,162	99	130	1,313
その他	369	1,088	355	367	355	967	352	474	1,347
合計	1,340	3,038	2,283	2,215	3,001	1,355	2,393	3,180	1,329

統計出所：財務省・貿易統計

（注1）「その他」は、合計から表中の各国の数値を差し引いて算出したものである

（注2）平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



4. 輸 入

自転車輸入は数量ベースでは 8,402 千台で対前年比マイナス 3% (220 千台) となり、08 年～09 年に続いて前年を下回った。また、金額ベースでは 648 億 9,100 万円で対前年比マイナス 8% (55 億 2,400 万円減) と数量同様に減少している。

仕入国は中国が圧倒的に多く全輸入の 97% を占め、第 2 位の台湾は僅か 3% にとどまっており、両国以外の国は全て合計しても 1% に満たない。

輸入車の平均単価 (CIF: 運賃保険料込み価格) は 7,723 円で、09 年に対し 444 円のダウンとなっている。中国における金属材料の高騰や労働条件の改善による人件費アップ等の影響で一時中国車の製造価格が上昇したが近年は下落傾向にある。

仕入国別輸入状況

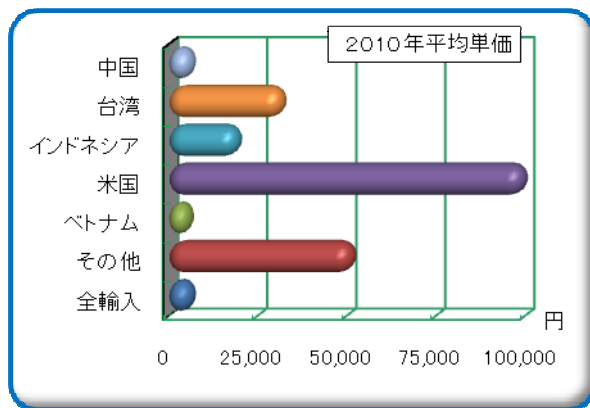
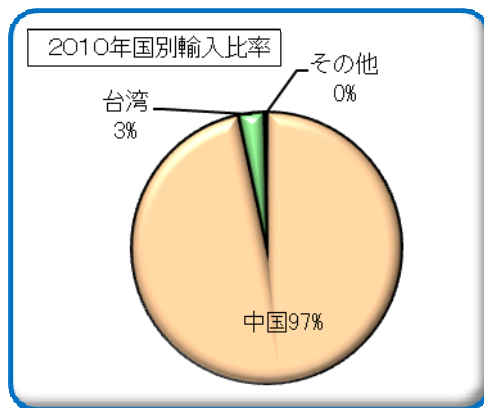
(単位: 数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

国 名	2006年	2007年	2008年	2009年			2010年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
中国	8,948	9,276	8,694	8,232	59,549	7,234	8,119	55,435	6,828
台湾	361	300	317	313	9,684	30,939	260	8,398	32,300
インドネシア	0	1	1	5	106	21,200	6	119	19,833
米国	10	10	7	6	577	96,167	4	447	111,750
ベトナム	0	3	5	5	43	8,600	4	25	6,250
その他	20	13	10	61	456	7,475	9	467	51,889
合計	9,339	9,603	9,034	8,622	70,415	8,167	8,402	64,891	7,723

統計出所: 財務省・貿易統計

(注1) 1000未満を端数処理したため、各国の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2) 電動アシスト車は含まない



車種別では、軽快車が 3,526 千台と全輸入の半分近く (42%) を占めて最も多いが、前年に対して 6% (218 千台) の減少となっている。軽快車に次いで多いのが 2,746 千台の子供車・幼児車で、この車種も軽快車と同様に前年を下回っている。

軽快車及び子供車・幼児車以外では、ミニサイクルが 124 千台と対前年比 5% 増であるが対 06 年比では 53% 減と大幅に減少している。マウンテンバイクも減少傾向にあり 226 千台と対前年比 25% 減 (75 千台) の減少となっている。

対照的に増加傾向にあるのが「その他」で 1,780 千台と対前年比 16% (250 千台) 増となっている。「その他」には、スポーツ車や外装変速機付軽快車等が含まれており、国内市場で需要

が高まっている外装変速機付車種の中国からの輸入が増加していることや欧米人気ブランドのOEM生産基地となっている台湾からのスポーツ車輸入が増加しているためとみられる。

車種別輸入状況

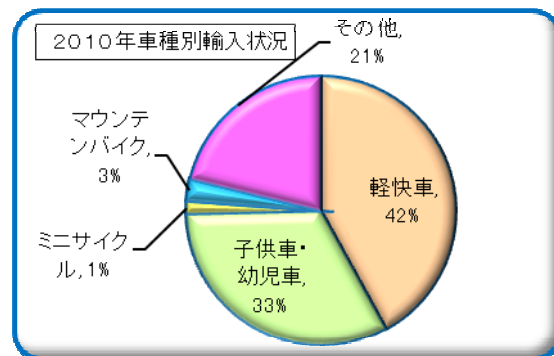
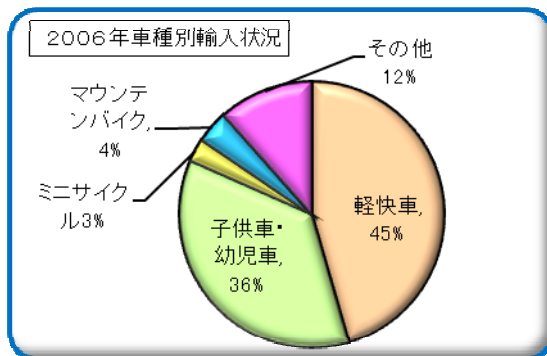
(単位:数量=千台、金額=百万円、平均単価=円)

車種	2006年	2007年	2008年	2009年			2010年		
	数量	数量	数量	数量	金額	平均単価	数量	金額	平均単価
軽快車	4,248	4,482	4,107	3,744	26,558	7,093	3,526	23,494	6,663
子供車・幼児車	3,370	3,355	3,132	2,929	18,968	6,476	2,746	17,066	6,215
ミニサイクル	263	214	158	118	1,419	12,025	124	1,211	9,766
マウンテンバイク	376	289	297	301	5,739	19,066	226	4,339	19,199
その他	1,082	1,263	1,340	1,530	17,731	11,589	1,780	18,781	10,551
合計	9,339	9,603	9,034	8,622	70,415	8,167	8,402	64,891	7,723

統計出所:財務省・貿易統計

(注1)1000未満を端数処理したため、全車種の和と「合計」が一致しない場合がある

(注2)平均単価は、表中の金額及び数量の数値により算出したものである



5. 出荷

自転車出荷台数(注)は9,459千台で対前年比2%(208千台)減となった。99年から増加傾向を続けたが、04年を境に以後減少傾向にある。09年は10年振りに1,000万台を下回ったが、10年はさらに減少する結果となった。

車種別比率をみると、軽快車が43%と最も多く、次いで子供車・幼児車が30%であり、これら2車種で全体の約8割近くを占めている。それ以外の車種は、近年増加傾向にあるスポーツ車等の「その他」の19%を除き、いずれも2~4%にとどまっている。

(注) 出荷統計が整備されていないため、本稿では生産と輸入の数量を合計した数値をもって出荷台数としている。なお、一般的に国産には輸出分が含まれるが、「2. 輸出」で述べたように我が国の自転車輸出の殆どが中古車であるため、出荷台数の算出に当たって輸出数量は無視している。

車種別出荷状況

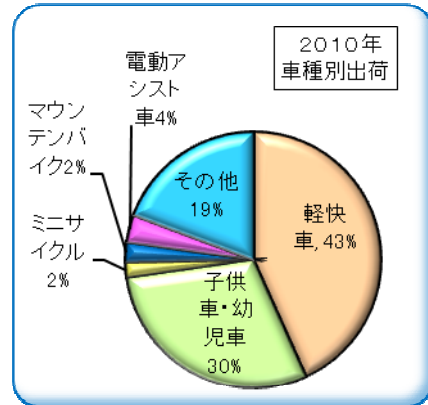
(単位=千台)

車種	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
軽快車	5,124	5,204	4,754	4,311	4,089
子供車・幼児車	3,422	3,394	3,178	2,982	2,795
ミニサイクル	346	292	235	184	184
マウンテンバイク	400	294	301	307	232
電動アシスト車	236	248	274	311	336
その他	1,147	1,309	1,386	1,576	1,824
合計	10,675	10,741	10,128	9,671	9,459

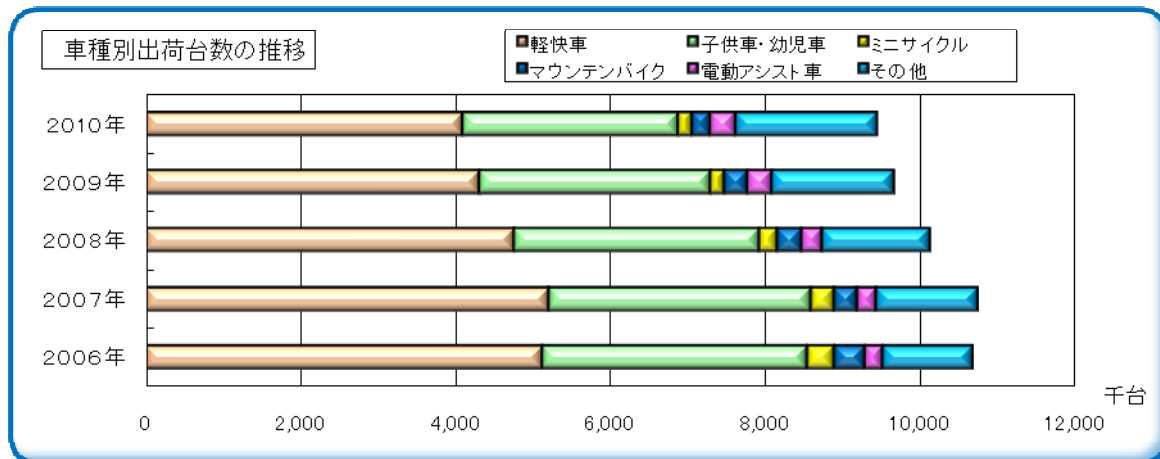
統計出所: 経済産業省・機械統計及び財務省・貿易統計

(注1) 1000未満を端数処理

(注2) 電動アシスト車は国内生産分のみ



06年～10年の車種別出荷状況は下図のとおりで、全体的な出荷量の漸減傾向は5割を占める軽快車の減少が大きく影響しているほか、ミニサイクルとマウンテンバイクの低減もその要因となっている。



以上